

「北海道一周鉄道旅行(4)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

函館本線は幹線ですが、普通列車よりも特急のほうが多く、普通列車は貴重な存在です。運転席もよく見えるので、少し覗かせてもらいました。



旅行者が目にする市販の「時刻表」は1分刻みの時刻しか書いてありません。しかし運転士さんの使っている時刻表(行路表)は実に15秒刻みで細かく書かれています。たとえば、上の写真では「桔梗駅着」は11時25分30秒、「桔梗駅発」は11時26分15秒、つまり45秒間の停車となっています。こうした運転士さん用の時刻表は、地方線区だけでなく、東京のJR線や地下鉄、私鉄線でも同じです。



運転士さんは出発時、到着時など、要所要所で行路表を指さし確認することが義務付けられています。指で軽く押すと「ピッ！」と音がするようになっています。この指さしの回数が自動的にカウントされる仕組みなのかも知れません。安全運転、運賃収受に加え、15秒刻みの定時運行・・・大変な仕事ですね！



真面目な運転士さんのおかげで、列車は定刻に「大沼公園駅」に到着しました。名の通り名勝大沼公園への玄関駅ですが、ホームは1面、線路も1線でいわゆる「一面一線駅」です。列車同士の離合(すれちがい)もできないので、「棒線駅」とも呼ばれます。



古風な駅舎は、内部も落ち着いた雰囲気です。小さな駅ですが、自動券売機やみどりの窓口もあり、無人駅の多いJR北海道の駅の中では、間違いなく「優等駅」に属すると思いました。

大沼公園駅発車時刻表 Onumakoen sta. Departure Time			
函館本線 上り Hakodate Line for Hakodate		函館本線 下り Hakodate Line for Oshima & Sapporo	
5		5	
6	47 普通列車	6	
7		7	41 普通列車
8	22 普通列車	8	
9		9	11 普通列車
10	12 普通列車	10	33 普通列車
11		11	15 普通列車
12	08 普通列車	12	44 普通列車
13	10 普通列車	13	14 普通列車
14	17 普通列車	14	00 普通列車
15	43 普通列車	15	29 普通列車
16	42 普通列車	16	00 普通列車

こんな小さな駅にみどりの窓口があるので、函館行き、札幌行きの全特急列車(北斗号)が停車するからです。普通列車よりも特急のほうが本数が多いです。



いかにも北海道の駅って感じの駅舎です。昔は屋根が赤かったのですが、今は落ち着いたグレーに変わっていて、周囲の木々と調和していました。



これは20年以上前に道南（南北海道）を旅行した時に描いた画です。このころは下絵に細いペンを使っていました。駅舎そのものや駅前の雰囲気はほとんど変わっていませんでしたので、何となくほっとしました。



少し小雨が降ってきたので、大沼のほとりで大急ぎで水彩を1枚描いたあと、昼食に入りました。駅から2, 3分歩いた場所にある、「MORI（もり）」というお店です。カナディアン・ログがしゃれていて、以前にも寄った記憶があったのです。



お店の中も木材をふんだんに使った、落ち着いた雰囲気です。このあたりはやや高原なので、冷房はありません。しかし開け放しの店内には自然の風が通って、とても涼しかったです。扇風機がレトロですね。



メニューが豊富で迷ったのですが、今回は「ほっけフライのチーズ・サンドイッチ」にしました。気絶するほどおいしかったです！湖畔では雨で途中だった水彩画も、このお店で仕上げました。



次の列車の発車まで20分ちょっとあったので、近くの郵便局に寄りました。この日は平日だったので、小さな郵便局も開いていました。私は旅行先で郵便局を探して寄るのが、一種の「趣味」なのです。